

■タウンミーティング概要(令和7年9月29日開催)

質問要旨	具体的内容	市長の発言
タウンミーティングの意義、情報公開の重要性	歴代市長がやらなかった中で、このタウンミーティングは前向きに評価したい。こうした情報公開の取り組みを今後も続けてほしい。	ご指摘の通り、情報公開・PRは非常に重要と考えています。今後は良いことも悪いことも議会や市民に隠さず公開し、双方向で市政をつくる方針で進めます。SNSなどの新しいツール、特にLINEでの意見交換やアンケート調査なども活用し、出てきたいろいろな意見をしっかりと受け止め、市政に反映していけるよう、「松戸のみんなで松戸を変える」をキャッチフレーズにして職員と一緒に改善を図っていきたいと考えています。
文化施設の利便性	文化ホールギャラリーに行くのが分かりにくく、場所も案内が不十分。文化面のPR強化を検討してほしい。	文化施設へのアクセス改善については、しっかりと受け止め検討していきます。文化・アートの政策の一例として外国人アーティストを呼んだりしていますが、なかなか表に出ていないので、もっと精査をして、PRを強化し、市民にわかりやすく情報を発信していきます。
新庁舎の建て替え・人材の確保	新庁舎を早く建ててほしい。新庁舎整備が職員のレベル向上と若手人材確保にもつながるはず。	ご指摘のとおり、早く新庁舎を建設しなければ仮庁舎の賃貸費もそれだけ掛かり、建築費も高騰してしまいます。また、良いオフィスが良い人材を呼び込むのも事実であり、人材面での相乗効果を生み出すためにも、早く庁舎建替えの実現をしたいという強い思いでいます。松戸で働きたいという学生さんを1人でも多く採用できるようにするためには、松戸市も変わらなければならないと思っています。市の職員、若い人たちが働きやすい環境を作り出せるように改善を図っていきます。
若者の関心・参加促進	学生や若者の市政への関心が低く、松戸市の魅力や施策が若者層に十分に伝わっていない。SNSなどでまちの魅力を発信できないか。	まちの魅力をもっと発信できるように、組織としての情報発信の強化や改良をしていきたいと考えています。もっと若い方に関心をもってもらうためには、私たちの努力も必要だと思っています。タウンミーティングでも高校へ行っての意見交換を検討するなどしており、少しずつでもこれから変わっていくのかなと思っています。「こんな情報の発信をしたら面白いのでは」などのアイデアがあればぜひお話をいただきたいです。
市政の透明性	市民の意見に対する市長や市の対応をもっと明確に示してほしい。	タウンミーティングの内容については、皆様のご意見に対して市長としてお答えした内容を議事録にまとめて、個人情報に配慮した上でホームページで順次公開していく予定になっています。いただいた意見への対応状況や進行中の施策についても、情報発信を強化して、市の取り組みや施策をしっかりとPRしていける組織づくりを目指していきます。
市職員の人材活用	各部署から人材を集め、シンクタンク的なグループで意見を整理・反映できる体制をつくってはどうか。	組織づくりについても、現在いろいろと議論しながら検討を進めています。例えば、「PRの強化」「民と官との連携」「新しい技術の活用」などの、政策に合った体制づくりを推進することで新たな変化を生み出していきたいと考えています。
市職員からの意見聴取	業務の課題や困難点を把握するための満足度調査などを実施して、職員の意見を聴取してほしい。	今までの松戸市というのは、どちらかというトップダウンであり、組織としてなかなか意見が言いにくい風土であったように思います。職員が現場で感じた声や意見が上がってくるように、これまでの風土を少しずつ解きほぐしながらボトムアップの意識に変えていきたいと考えています。
公約のフォロー	市長の公約の達成状況や評価などを公表するなど、市長就任後のフォローが見える化してほしい。	ご指摘の通り、行政公約の一覧表を作り、できたこと・進行中・未着手の状況を公表していく予定で検討しています。評価についてはまだ市長になって4カ月なので全てをできない部分もありますが、少なくとも学校給食の無償化や市長報酬削減など今の段階で達成できたこともあります。それらは単発で市長のSNSなどで発信をしてきましたが、発信方法についてもさまざまな広報媒体を駆使することで情報発信の強化を図っていきます。
大規模支出の優先事項	松戸市の大規模支出(病院の赤字、クリーンセンター建て替え、庁舎建替えなど)の中で、市長が考える節約の優先事項は何か。	市政改革の一丁目一番地はやはり病院、市立総合医療センターです。600床あるのに稼働率は70%台で、年々赤字が増えていってしまっています。適正な病床数の検討を含めて、民と官とで連携をしながら市全体の医療体制の見直しを進めることで、年間数億、数十億円規模の削減が作り出せるはずだと考えています。一方で、小児医療・周産期医療・救急医療などは、採算性が合わない医療でも必要な部分として、しっかりと守っていきます。
ごみ処理施設の更新	クリーンセンターの寿命が迫っており、市としてどのように対応するのか。	現在稼働している和名ヶ谷クリーンセンターの稼働予定はあと9年ぐらいとなっており、延命しても10年持たず、50万人都市の根幹を揺るがす課題です。今年度内、可能であれば年内に基本設計と概算費用を公開し、国の支援や起債を活用して整備を進めます。市の負担を抑える工夫、コスト削減をトータルで考えながら、一刻も早い持続可能なごみ処理体制の確立を目指します。

■タウンミーティング概要(令和7年9月29日開催)

質問要旨	具体的内容	市長の発言
重複事業や不要施策の見直し	税金の無駄遣いがあるように感じる。例えば公用車の数も削減できるのでは。	公用車については、従来は必要だったけれども時代の移り変わりとともにその必要性が薄れてきた車両が残っている可能性があるので、台数管理や貸出方法を再検討します。試験的・実験的にやり始めたことがそのままになっていたり、重複している事業(例えば相談窓口など)も確かに存在するので、8月22日に示させていただいた財政の基本方針に基づき、時代とともに役割を終えた部分というのは見直しをしていく方針です。
防災施策の現状と課題	防災に関する松戸市の取り組みがあまり見えてこない。問題や課題は何か。	課題は避難所運営です。避難所に避難してくる外国の方やペットを飼われている方、障害を持っている方、高齢の方など、さまざまな方が安心して避難し、そこで生活することができるようにしっかりと考えて、避難所運営委員会などを強化していきます。松戸市の場合は、河川の氾濫というのが最悪のシチュエーションとして想定されるので、万が一に備えて垂直避難できる避難先を増やすために、民間企業と連携協定を結ぶなどの取り組みを着実に進めていきます。
外国人の防災への関心	外国人に防災への関心をもってもらうための方策はあるのか。	外国の方が今増えてきている中で、通常時から日本語学校や外国人が働いている職場に多言語対応のチラシやパンフレットを持って行き、災害時の避難先や普段のごみ捨ての仕方などをできる限り発信してコミュニケーションを図れるように取り組んでいます。
みどりの保全	街路樹が切られっぱなしで放置されていることや、住宅開発に伴い緑が失われることを懸念。緑を守るための市の考えを伺いたい。	街路樹は高度経済成長期に植えられて50年以上経過している木が多く、老木化による倒木リスクから順次対応が必要です。松戸のみどりは東京との違いを示す市の大きな魅力であり、これからも大事にしていきたいと考えています。一方で、落ち葉の掃除・処理など負担の声もあるため、住民の安全と景観の両立を意識しつつ、緑のまちづくりを進めていきます。
企業誘致と税收確保	松戸は住民税は増えているが、企業誘致が弱く財源確保が課題ではないか。	ご指摘のとおり、法人税については企業誘致が少し弱い部分が課題です。税收についてはもう一つ、固定資産税の収入が周辺自治体より低く、大きな課題であると認識しています。今後はまちの再生を進め、魅力的な市街地を形成して地価や税收を高めていくことも目指していきたいと思っています。
治安やイメージの改善	松戸には「治安が悪い」という古いイメージが根強く、街のブランド向上が必要ではないか。	松戸市は治安が悪い、というイメージは、本当に払しょくをしなければならない課題であると感じています。松戸の刑法犯認知件数は1999年をピークに約5分の1まで減少しており、決して他市より高いわけではありません。昔の印象が残ってしまっているので、積極的なPRや情報発信を強化することで、良い意味での松戸のブランドを確立していきたいと考えています。
地域活動・応援団の活用	地域で活動する団体や個人を「応援団」として市と協力して情報発信をする考えはないか。	ご提案のとおり、松戸市には50万人の市民と多様な団体が存在し、そういった方々との連携は絶対に必要だと考えています。行政が応援し、市民活動が市のPRにもつながるよう、双方にとってプラスとなる関係を目指していきたいと思います。
教育委員会の指導体制	ストローが廃止された小学校での牛乳の飲み方の指導と教育委員会の対応、教育環境のあり方に疑念を抱いた。	いただいたご意見については、教育委員会も含めてどういう状況であったのかを確認します。時代の変化に対応した教育のあり方については、先日も教育長と議論しています。教員一人ひとりの育成という視点も含めて取り組んでいきたいと思っています。